

# 県民のあゆみ

山形県広報誌  
令和4年9月号

県民のあゆみ

No.629

奇数月1日発行 編集発行◎山形県広報誌推進課  
〒990-8570 山形市松波二丁目8番1号 ☎023-630-2534

表紙題字 | 山形県知事 吉村美栄子  
県ホームページURL: <https://www.pref.yamagata.jp/>



このQRコードを  
スマートフォンで  
読み取ると  
デジタル版が  
見られます。



- 2 | 県民の皆さまへ 新型コロナウイルス感染症関連情報
- 4 | 特集 「果樹王国やまがた」の再生に向けた取り組み
- 8 | 奏であう人 誰もが安心して暮らせる地域を目指して
- 16 | 潜入レポート！ 山形新幹線車両センター

大江町就農研修生受入協議会会長の渡辺誠一さんと、新規就農した角田愛理さん。角田さんは、渡辺さんの元で研修を積み、今年から独立して、すももや野菜などの生産に取り組んでいます。  
(撮影場所：渡辺さんのすもも畑)



## どうなってるの!?

### やまがたしんかんせんしやりょう 山形新幹線車両センター

今年で開業30周年を迎えた山形新幹線  
車両センターでは、どんな作業が行われているの?

安全で安心、快適な新幹線の運行を支える  
縁の下の力持ち!

山形新幹線車両センターは、1992年の山形新幹線の開通に合わせて作られました。車両の点検や整備、洗浄など、私たちが普段目にするのができないさまざまな作業を行っています。こちらで行う新幹線の検査は、仕業検査(目で見て判断する検査)と交番検査(機械内部の検査)の2つがあり、2日に1回の頻度で仕業検査を、6万kmの走行につき1回の頻度で交番検査を行います。さらに、山形新幹線車両センターでは、新幹線に加え、在来線である奥羽本線の車両の整備も行います。これは全国でも珍しく、福島駅から新庄駅までの奥羽本線の車両が、普通の在来線の線路(幅1067mm)と異なり、山形新幹線と同じ線路(幅1435mm)を走るように作られているためです。通常、東北エリアの在来線の車両は福島県や宮城県の車両センターで整備されるのですが、奥羽本線新庄駅まで運転されている車両は山形新幹線車両センターで整備されています。



山形県内を駆け抜ける山形新幹線!  
JR東日本仙台支社提供

センター内に続く線路は14線。新幹線がたくさん並ぶ姿は圧巻!!



山形新幹線車両センター  
よしの かいと  
吉野 海渡さん

通勤や通学で使う電車を安全に運行するため、車掌や駅員だけではなく、多くのスタッフが協力しています。ボルトを締めたり部品を交換するなど、さまざまな整備を行う人たちがいて、電車が動いていることを知っていただけたらうれしいです。

### ポイント



列車版ドライブスルー洗車  
JR東日本仙台支社提供



電車の生命線、パンタグラフの整備もここで  
JR東日本仙台支社提供



車両の下から、下回りもチェック  
JR東日本仙台支社提供

新幹線は、全長約12mの洗車機を通してピカピカにします。新幹線の顔の部分には、手洗いもっています。

架線から車両に電気を取り込むパンタグラフのスリ板のチェックや、さし油などの整備も行います。

車両センターは、車両の下から車輪などの点検ができるようになっています。ボルト1本のゆるみもないよう、下回りもしっかり検査します。

